

受け身のつまずきは、意味(～される)よりも「be動詞＋過去分詞」という形の重さにあります。この授業案は前半でチャンツ(リズム唱和)により型を口に覚えさせ、後半は「ご当地クイズ」で This car is made in 〇. / It was invented by 〇. を使う必然性をつくります。声を出す量が多いので、おとなしいクラスの空気を変えたい時期にも向いています。

この教材で解決できる悩み

- ・ be動詞が抜けた「It made in Japan.」型の誤りが多発する
- ・ 過去分詞の暗唱が単調な繰り返しになって飽きられる
- ・ 受け身を「和訳のための文法」で終わらせたくない

教材の概要

項目	内容
対象	中学2年(NEW CROWN 2 Lesson 6)
文法項目	受け身(is/are/was/were＋過去分詞、by～)
形式	授業案A4・3ページ＋チャンツ歌詞・過去分詞カード24枚
所要時間	50分×1コマ
準備物	カード印刷。手拍子ができれば音源は不要

授業の流れ(50分)

チャンツで型を入れる(15分)

4拍子の手拍子に乗せて、動詞3変化→受け身文の順で唱えます。

make - made - made!(×2)
This bag is made in Japan!
use - used - used!(×2)
English is used all over the world!

ポイントは、過去分詞を単独で言わせたあとすぐに文の中で言わせること。変化表の暗記と文の運用を1つのチャンツで往復します。速度を上げる・列対抗にする、で飽きる前に切り上げます。

ご当地クイズ(20分)

教師が実物や写真を見せて Where was it made? / What is it called in English? と問うクイズを6問。「この味噌はどこで作られた?」「この城はいつ建てられた?」など、地元ネタを2問混ぜると食いつきが跳ね上がります。答え合わせの文(It was made in 〇.)は全員で唱和し、チャンツの型に回収します。

ミニ産出(10分)

ペアで「身の回りの物クイズ」を1問作って出します。文フレーム(This ~ is made in ~. / It is used for ~.)
つきなので導入日でも作れます。

まとめ(5分)

本時の文を3つ板書に残し、「by~が要るのはどんなとき？」と問いを残して次時(byの有無・疑問文)へつなぎます。

チャンツは盛り上がる一方で、口が回っているだけで意味処理が伴わない生徒も出ます。クイズパートで「今の文、日本語でどういう意味？」と数回確認を挟み、音と意味を必ず往復させてください。

定着への接続

翌時の帯活動でカード24枚を使った「3変化神経衰弱」(原形と過去分詞のペアを取る)を行うと、チャンツ→カルタ→書く練習の3段ロケットになります。カードはその設計で作ってあります。